

No.428

研究所通信

● ホームページアドレス <https://blhrrri.org>

2022年度定時総会を開催しました



記念講演のようす



講師の内田博文さん

2022年6月23日(木)、阿倍野区民センターにて (一社) 部落解放・人権研究所 第11回定時総会を開催しました。多くの方のご参加、ご協力ありがとうございました。

総会記念講義は、当研究所の第4研究部門「差別禁止法研究会」代表・九州大学名誉教授の内田博文さんをお招きして「包括的差別禁止法がなぜい求められるのか？」をテーマに、ご報告いただきました。

研究所「会員ページ」に記念講演の録画データと資料データを後日掲載する予定です。会員の方はぜひご視聴ください。

もくじ

理事からのメッセージ/川口泰司業務執行理事	2	第43回人権・同和問題企業啓発講座 ご案内	10
第3研究部門「識字・成人基礎教育研究会」公開研究会	4	世界人権宣言大阪連絡会議総会&記念講演	11
2022年度第1回理事会および総会報告	5	新刊案内『国際人権規約連続学習会 講演録2021』	12
新刊案内『私の沖縄問題』	6	映画『破戒』が公開/はじめての移動人権展2 ご案内	13
ハンセン病市民学会 参加報告	7	リレーエッセイ	14
集会ふれあい記 第16回沖縄編	8	参加者募集 / 事務局便り	15
第53回部落解放・人権夏期講座 ご案内	9		

理事からのメッセージ

西夏@沖縄プレイベントと反差別のワンアクション

業務執行理事 川口 泰司



■西夏・プレイベントを沖縄で開催！

第47回部落解放・人権西日本夏期講座は、沖縄県内の新型コロナウイルス感染者数の増加状況などを考慮して、会場での開催を中止しオンライン開催となりました。全国から1300人を超える参加がありました。

西日本夏期講座の周知に向けて本年5月29日(日)、那覇市でプレイベント「せやろがいおじさんと、沖縄で”部落問題”を語る！」を開催しました。

部落問題について学ぶ機会が少ない沖縄の人に向けた入門講座として、お笑い芸人・YouTuberのせやろがいおじさんこと榎森耕助さんと当研究所の谷川雅彦代表理事、そして私の3人によるトークセッションをおこないました。当日は県内の大学生をはじめ、新聞やSNSなどでイベントを知った方など約40名が参加してくださいました。

イベントは榎森さんがMCとなりQ&A方式で、部落史の基本的な話から結婚差別や就職差別、土地差別、日常の中にある差別(マイクロアグレッション)、ネット上の部落差別、差別禁止法の必要性などについて、沖縄の基地問題や平和教育などとも重ねながらのセッションをおこないました。

何より嬉しかったのは現地ボランティアスタッフや参加者との出会いを通して、沖縄での基地問題や、ヘイトスピーチに対するカウンター、障害者、ハンセン病、LGBTQなどへの差別解消に向けて取り組む人たちとの新たなつながりができたことです。沖縄にも部落問題について一緒に考えたいと関心を持ってくれる仲間が少なからず「いる」こと。小さなうねりですが、確実に一歩ずつ積みあがっていることを実感し、沖縄を後にしました。



「プレイベント」トークセッションの様子

■Yahoo!ニュースにプレイベントの記事が掲載、コメント欄の差別投稿

地元の沖縄タイムスがプレイベントのことを記事にしてくれました(5/31)。その記事はYahoo!ニュースにも掲載され、多くの人に関心を持ってもらうことができました。しかし、Yahoo!ニュースのコメント欄は差別を助長する投稿も多く、ひどいことになっていました。コメント欄では「同和利権」「逆差別」「差別はないのに利権のために騒いでるだけ」など現代的レイシズムのオンパレードでした。

これまでの部落問題に対するヤフコメ分析でも明らかになっているように、部落差別解消に向けた積極的な記事が掲載されても、コメント欄では部落問題に対する偏見・差別を助長する投稿が多くを占めます。そうして、部落問題について無知・無理解な人ほど、差別意識が強化されていく状況があります。多くの人が閲覧する場で、このように偏見・差別情報がばらまかれ続けることは、社会の差別をより強化していきます。

また、部落出身者がそのような差別的コメントを目にすると、差別に対する不安や肯定的アイデンティティが傷つけられていきます。差別する側が「歪んだ正義感」「表現の自由」という名のもとに差別投稿をおこない、プロバイダも差別投稿を放置することで、被差別マイノリティの「表現の自由」が奪われ、萎縮し発信できなくなっています。

■ポジティブ情報の発信、カウンター投稿の重要性

今年は水平社創立100年ということもあり、部落問題の記事がこれまでにないほど増えており、Yahoo!ニュースにも度々取り上げられています。その度にコメント欄で偏見や差別意識が扇動されていく状況を少しでも変えていかなければなりません。そんな思いから、私たちはすぐにSNSでヤフコメに対するカウンター投稿などの取り組みを呼びかけました。すると、偏見・差別的なコメントに対するカウンター投稿や部落差別の現実を訴えたコメントなども次々と投稿され始め、反差別の価値観とうねりが少しずつコメント欄にも増えてきました。

これらの投稿は、サイレントマジョリティに対する部落問題の教育・啓発としての効果があります。何より、被差別マイノリティにとって反差別のメッセージがあることで、社会に対する信頼と安心感を取り戻すことにつながります。全国水平社創立100年を迎えた今、差別事件の主戦場はネット上になっています。差別解消に向けたポジティブな情報発信やカウンター投稿、違反通報を積極的におこなっていくことも重要な取り組みになっています。そろそろ、ネット上の差別に対し、自分にできる反差別のワンアクションをやっていきませんか？

報告 第3研究部門「識字・成人基礎教育研究会」公開研究会**ワークショップ どうつくる? 『識字・水平社100年宣言』**

2022年6月3日(金)、HRCビル5階(大阪市港区)にて識字・成人基礎教育研究会公開研究会「ワークショップ どうつくる? 『識字・水平社100年宣言』」が開催された。進行は、同研究会代表の森実さん。兵庫、和歌山、徳島、香川、福岡、大阪などから会場に15人、オンラインで約25人が参加した。このワークショップは、10月に開催される部落解放第19回全国識字経験交流集会に向けての取り組みだ。全国水平社創立100年の今年、改めて水平社宣言を読み、「識字・水平社100年宣言」を識字関係者によりつくる。そのためにまずは、各教室で「わたしの水平社宣言」を書き、全国の仲間の宣言をつないで「識字・水平社100年宣言」にしていく予定だ。その学習活動について学び、検討していくのが今回の公開研究会だ。

研究会では、まず①解説編として、水平社宣言についての解説があった。宣言は現代的差別を捉える枠組みとしても有効であり、課題を解決していくヒントや答えが書かれている。現代的差別と宣言を照らし合わせながら、宣言を読み、自分の経験を出し合う。ある識字教室で作成された「わたしの水平社宣言」が紹介された。韓国やベトナムから来阪した学習者が受けた職場での差別やそれらを乗り越えてきたこと、学習支援者が自らの加差別性と向き合いながら生きてきた道のりについて書いた宣言などだ。実際につくられた「わたしの水平社宣言」を通じて、被差別体験だけでなく、加差別の立場にいた自分を振り返り、そのことを乗り越えてきたことについても書けるといことも紹介された。それらの話を受けて実際に、②グループワーク編として3~4人に分かれてそれぞれの経験について話し合った。そして、最後に③全体で話し合いとして学習活動について検討された。

今回は、大阪を会場にして開催したが、訪問して実際に学習活動を開催してほしいという要望も受け付けるとのこと。事務局にご相談ください。

(菅原 智恵美「識字・成人基礎教育研究会」メンバー)



公開研究会 会場ようす

2022年度 第1回理事会および総会報告

去る2022年5月12日(木)に、2022年度第1回の理事会が開催されました。

理事会で提案、承認された2021年度事業報告の概要のみ以下ご紹介します。

調査・研究事業においては、第4研究部門「差別禁止法研究会」の調査研究の成果をふまえて、2022年3月に「すべての人の無差別平等の実現に関する法律(案)」(包括的差別禁止法案)をとりまとめ、発表しました。あわせて、各人権課題をめぐる個別差別禁止法の動向や課題については、被差別マイノリティ当事者との合同研究会で報告・議論を重ね、『部落解放研究』216号(2022年3月)の特集「包括的差別禁止法の制定をめざして」に掲載しました。

また、インターネット上における部落差別の現状把握とそれへの対応検討にかかわって、第6研究部門の「ネットと部落差別研究会」で公開研究会やモニタリング団体ネットワーク会議、モニタリング団体等を対象とした質問紙調査を実施しました。それらの成果を『部落差別解消マニュアル② ネット人権侵害と部落差別の現実ーモニタリングと今後の課題ー』(2022年5月刊行)としてとりまとめる準備を進めました。あわせて、第35回人権啓発研究集会(三重)の分科会「これからの部落問題解決を担う女性からの発信」の内容を

ベースにした書籍『部落の私たちがリモートで好き勝手にしゃべってみた。』(2022年5月刊行)の編集作業を進めました。

人権人材育成事業では、第117期「部落解放・人権大学講座」と第34回「人権啓発東京講座」の一部(12日間)をオンラインによって合同で実施し、第117期「部落解放・人権大学講座」は57人が受講し、56人が修了されました。第34回「人権啓発東京講座」は26人が受講し、全員が修了されました。

人権啓発事業については、第46回部落解放・人権西日本夏期講座(福山市開催をオンライン開催に変更)(参加者数1,712人)、第52回部落解放・人権夏期講座(高野町で一部開催を全てオンライン開催に変更)(参加者数1,173人)、第42回人権・同和問題企業啓発講座第1部・第2部(オンライン開催)(参加者数865人)、第36回人権啓発研究集会(和歌山市開催をオンライン開催に変更)(参加者数2,016人)の実行委員会事務局を務め、講座成功に向けて取り組みました。

その他、理事会で確認・承認された議案が、6月23日に開催された第11回総会にて提案・審議され、会員に承認いただきました。ご参加、ご協力ありがとうございました。

(佐藤 晃司)

新刊案内 『私の沖縄問題』 7月上旬発売

(一社) 部落解放・人権研究所 編

月刊『ヒューマンライツ』で 2018年よりスタートしたシリーズ
「私の沖縄問題」が書籍になりました。



過去半世紀にわたって沖縄に押しつけられた問題は、本土の問題である。本土が変わらない限り問題は解決しない。沖縄に押しつけてきた問題とは何か。戦争と差別に反対し平和と人権を守るため被害、加害の両側から考える。

【執筆者一覧 (掲載順)】

谷口真由美／明真南斗／齊加尚代／岸政彦／藤井誠二／仲村清司／打越正行／元山仁士郎／星野人史／高橋年男／早坂佳之／知念涼子／徳森りま／金城馨／島洋子／糸数慶子／金城実／知念渉／普久原朝充／森雅寛／平良斗星／阿部諒／慶田城七瀬／大城尚子／辻央／下地久美子／砂川秀樹／平野智之／沖本富貴子／金城隆一／森本浩平／西尾慧吾／尾川えりか／JIWA-JIWA／乗松聡子

四六判 並製 224頁

定価 1760円(税込) ISBN 978-4-7592-6803-4

(株)解放出版社 発売

◎書籍のお求めは・・・全国書店ほか (株)解放出版社にお問合せください。

販売：(株)解放出版社 〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル3階

TEL：06-6581-8542 FAX：06-6581-8552 <https://www.kaihou-s.com>

参加報告

ハンセン病市民学会 第16回ハンセン病市民学会全国交流集会 in長野

全体統一テーマ：求めてきたもの、そして今

— 新型コロナウイルス感染症とハンセン病問題 幾重もの分断を超えて —

「求めてきたもの、そして今」をテーマに、第16回ハンセン病市民学会の全国交流集会が6月11日(土)～12日(日)、長野県とオンラインのハイブリッド方式で開催された。主催者を代表して共同代表の内田博文九州大学名誉教授は「今回の市民学会に底通する問題は、差別の解消。家族訴訟判決で、国のらい予防法廃止以降の偏見差別除去義務違反が明らかになり、偏見差別解消へ向けた施策検討会が設置された。市民学会として要望を出すことも検討したい。本集会がハンセン病問題の全面的解決に大きな一歩となることを祈念する」とあいさつされた。

被差別当事者による差別解消にむけた取り組みに学ぶ分科会には、部落解放・人権研究所の谷川雅彦代表理事、龍谷大学の金尚均教授、DPI日本会議の佐藤聡事務局長が、部落差別、ヘイトスピーチ、障害者差別の解消に向けた取り組みと課題についてそれぞれ報告した。司会の内田共同代表から①差別解消のためには禁止法が必要。②禁止法の目的は罰することではなく「共通の物差し」をつくること。③差別解消に実効性のある人権教育・啓発を推進する

ためにも差別禁止法は不可欠。④司法や行政の差別概念の理解が狭く、被害が救済されない。泣き寝入りをなくすることも禁止法の目的。⑤包括的差別禁止法と個別差別禁止法は車の両輪。⑥差別禁止法と人権救済法はコインの裏表でどちらが欠けても差別解消は進まない。⑦地域の実情をふまえ自治体における包括的差別禁止条例、個別差別禁止条例をつくること。⑧差別禁止法の実現へ、被差別マイノリティが交流・連帯できる「プラットフォーム」が重要、市民学会も積極的に参加する、とまとめられた。

(谷川 雅彦)



【分科会第四】「被差別当事者の声を聴く—差別解消の推進に向けた取り組みを考える—」のようす

であい
つながり

集会ふれあい記

第16回
沖縄編

残念ながら3度目のオンライン開催となった、部落解放・人権西日本夏期講座。現地での開催を楽しみにして下さっていた方々にはこの場を借りてお詫び申し上げます。

今年は沖縄の日本復帰50年、施政権が日本に返還された5月15日を中心に沖縄に関する報道も多く、沖縄県内でも県立博物館をはじめとするさまざまな施設で復帰50年をテーマにしたイベントが開催されています。

沖縄の復帰を考えるときにぜひ訪問していただきたい施設があります。沖縄市にある「沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート」です。基地の街、戦後沖縄の縮図と形容される沖縄市の戦後史を見つめ直すことを目的に開設された資料館です。実物サイズの米軍基地フェンスやAサインバー（復帰前、米兵の入店を認めた営業許可証のある店）、町並みのジオラマといった展示。そして沖縄戦から戦後の人びとの暮らし、米兵でにぎわう歓楽街、アメリカの圧政・人権侵害に対する怒りが爆発したコザ暴動などの様子を豊富な写真と実物資料、解説文から知ることができます。

私は展示で初めて復帰前の沖縄に「毒ガス」化学兵器が持ち込まれていたことを知り、その事実と自分の無知に衝撃を受けました。無知といえば事務局としてこの間、何度か出張した沖縄で、出会った方から「沖縄生まれ、沖縄育ちだけど本籍が鹿児島だったので、復帰前は外国籍扱いで指紋押捺をさせられた」と伺ったことも初めて知ることでした。「中高時代を宮崎で過ごしたけれど、沖縄出身は隠していた。『破戒』を読んだときに、これは自分の話だと思った」とおっしゃった方もいました。

琉球併合から沖縄戦、占領、復帰、そして現在、沖縄はずっと島外から構造的暴力を受けています。基地問題を中心に、現代の沖縄の課題を知るには、歴史を学ぶ必要があることを痛感した日々でした。

ヒストリーの隣には「Café Ocean」という、Aサインバーとして占領期から営業していた数少ない現役のお店があります。映画「ミラクルシティ・コザ」のロケも行われた店内は懐かしい雰囲気、ランチに名物のタコスいただきました。

ウェブ上でも閲覧できるヒストリートですが、ぜひみなさんも沖縄を訪れることがあれば、訪問してみてください。

(K)



「Café Ocean」に貼ってある「Aサイン」

第53回部落解放・人権夏期講座 ご案内

〈会場開催〉8月22日(月) 14:00～17:30、23日(火) 9:00～12:15

高野山大学(〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385)

〈録画配信〉8月29日(月) 10:00～ 9月29日(木) 17:00

視聴サイト「Vimeo」

「会場開催+録画配信」「録画配信のみ」のいずれかを選んで参加お申し込みください。

●参加費 8,000円(参加・資料代)

●主催 部落解放・人権夏期講座実行委員会

*当講座の詳細、参加申込方法、お問い合わせは(一社)部落解放・人権研究所のウェブサイトをご確認ください。

録画配信でのご参加の場合は、以下の全体会・分科会の講座開催日時はあてはまりません。

●全体会 8月22日(月) 14:00～17:30

黎明館 「メディアがみた部落問題の現状 ～全国水平社創立100年」

西日本新聞「人権新時代」取材班

「マジョリティの特権とマイクロアグレッション」 出口真紀子(上智大学外国語学部英語学科教授)

201教室 「『ビジネスと人権』～実効性のある取り組みに向けて～」

佐藤暁子(国連開発計画(UNDP)アジア太平洋地域事務所ビジネスと人権プロジェクトリエゾンオフィサー)

「水平社100年とこれからの部落解放運動」 赤井隆史(部落解放同盟大阪府連合会執行委員長)

●分科会 8月23日(火) 9:00～12:15

黎明館 「誰もがともに生きていけるまちづくり ～フルインクルージョンをめざして～」

玉木 幸則(NHK Eテレ「バリバラ」ご意見番)

「身近なところからジェンダーを考えよう」 宮前千雅子(関西大学人権問題研究室委嘱研究員)

201教室 「採用選考における就活生のSNS調査」 市原研吾、矢島大輔(朝日新聞大阪社会部記者)

「歴史をめぐる日韓の対立 分かり合えないのはなぜか」

渡辺延志(ジャーナリスト、『歴史認識 日韓の溝 分かり合えないのはなぜか』著者)

302教室 「多様な性の視点から、職場環境をとらえなおす」

いつき(関西大学4年、Q-Iosik講師担当)、ほり(大阪府立大学博士前期課程1年、Q-Iosik共同代表)

「菊池恵楓園絵画クラブ『金陽会』の作品から気づかされるもの」 藏座江美(Curator)

●フィールドワーク(事前申込制・別途参加費要・抽選受付) 8月23日(火) 10:45～16:30

「高野山の歴史 ～『平等と差別』を中心に～」

木下浩良(高野山大学密教文化研究所受託研究員、清浄心院高野山文化歴史研究所所長)

●特別企画 映画『かば』上映会 8月23日(火) 13:00～15:35(会場 黎明館)

※上映後、川本貴弘監督のトークショーあり

新型コロナウイルスの感染状況により、会場での開催が中止になった場合、録画配信のみに変更します。開催3週間前までにご案内します。

第43回 人権尊重の風土づくりをめざす 企業・法人のための

人権・同和問題企業啓発講座 オンライン講座2022年
第1部 9月30日(金) 10時から 10月31日(月) 17時まで2022年
第2部 11月1日(火) 10時から 11月30日(水) 17時まで

*第1部・第2部 各4講座 計8講座 (各講座70分程度)

動画配信 上記期間中に専用ホームページで動画を視聴いただきます。

受講料 第1部・第2部 併せて 8,000 円
第1部・第2部のいずれかのみ 4,000 円

主催 人権・同和問題企業啓発講座実行委員会

*当講座の詳細、参加申込方法、お問い合わせは(一社)部落解放・人権研究所のウェブサイトをご確認ください。

第1部 9月30日(金) 10時から 10月31日(月) 17時まで

「職場のハラスメントをなくすために～何ができるか、何をすべきか～」

今津 幸子 (アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業 パートナー弁護士)

「就職差別NO!一雇用平等への歩み」

奥田 均 (近畿大学 名誉教授)

「性的マイノリティの人権」

五十嵐 ゆり (LGBT法連合会 理事)

「移住労働者の人権と企業の役割」

丹野 清人 (京都府立大学 教授)

第2部 11月1日(火) 10時から 11月30日(水) 17時まで

「ビジネスと人権～事業・業務と人権のつながりを考える～」

菅原 絵美 (大阪経済法科大学 教授)

「IT革命の進化と新たな人権課題～ネット上の部落差別と人権侵害の現状をふまえて～」

北口 末広 (近畿大学 教授)

「精神疾患と共に生きる暮らしの『生きづらさ』から考える」

山本 深雪 (大阪精神医療人権センター副代表 / 大阪精神障害者連絡会「はちほクラブ」代表)

「職場の人権・アイウエオ研修」

堀井 悟 (大阪企業人権協議会 講師)

世界人権宣言大阪連絡会議 第39回総会&
記念講演「『大阪のおばちゃん』が見た『おっさん社会』」

4月25日(月)、大阪市立東成区民センターで世界人権宣言大阪連絡会議第39回総会と記念講演を開催しました。3年ぶりに会場に集う総会に、約350人の方が参加されました。今年度は「あらゆる差別と戦争に反対し、世界人権宣言と人権諸条約の具体化に取り組もう!」をテーマに掲げ、2021年度の活動・決算報告および2022年度の活動方針・予算・役員体制を提案、すべての議題が満場の拍手で承認されました。



入賞者の上智大学生・菅野史紗さんと
谷口真由美審査委員長

協議の後には2021年度に初めて実施した、人権啓発動画コンテスト「みんなの人権・映像フェスティバル」入賞の4作品を上映しました。審査委員長の谷口真由美・大阪芸術大学客員准教授による総評も行われ、会場には入賞した大学生も駆けつけました。

記念講演では、引き続き谷口真由美さんにご登壇いただき、「『大阪のおばちゃん』が見た『おっさん社会』」をテーマにお話いただきました。

「おっさん」と長い間色々なたたかいをしてきた谷口さん。「おっさん」の定義はすべての男性に当てはまるものでもなく、女性が「おっさん」にならないわけでもないと話します。2012年に谷口さんが「全日本おばちゃん党」をつくったときに、「おっさん」は上から目線で独善的、悪いことがあっても謝らない人のことを指し、「ありがとう」「ごめんなさい」「おめでとう」の3つの言葉が言えないと定義しました。しかし、ラグビー協会という組織の中に入り責任者としての立場を経験し、その定義に目上の人間には従い立場の弱い人間には高圧的、思考停止、保守的などの特徴もプラスされたといいます。組織の中にいてその論理に従っているときは組織からはじき出されませんが、こういった利己的な考えは組織を蝕むと警告されました。

あえて「おっさん」という定義をしたのは、男性がつくってきた「男性」の話、組織論の話に気づいてほしいからとお話しされ、関わる人たちの知識、人権感覚のアップデートが必要と説き、これまでの当たり前を疑って「脱おっさん化」を進めてほしいと記念講演を締めくくられました。

(竹部 潮里)

新刊案内

「国際人権規約連続学習会 講演録2021」

世界人権宣言大阪連絡会議が2021年に開催した学習会が1冊の本にまとまっています。

頒価／1,000円

編集・発行／世界人権宣言大阪連絡会議

購入・問合せ先／世界人権宣言大阪連絡会議

TEL&FAX 06-6581-8705

Email: udhr@blhrii.org



学習会一覧（掲載順・敬称略）

「コロナ禍での障害女性の声」

佐々木 貞子(DPI女性障害者ネットワーク)

「英国におけるコロナ差別解消の取り組み」

林 菜里子(東南・東アジアセンター)

「東日本大震災から10年～あの日からこれまで、そしてこれから」

菊池 由貴子((一社)大館新聞社)

「ネット誹謗中傷／SNS差別の現状と今後の課題」

川口 泰司((一社)山口県人権啓発センター事務局長)

「沖縄とラオスの村で取り組むSDGs」

石原 修(コープおきなわひとものづくりサポーター／内閣府認定地域活性化伝道師)

「解放令150年—旧被差別身分の人々は何を獲得し、何を奪われたのか」

吉田 勉(東日本部落解放研究所副理事長)

「ミャンマーの情勢と民主化を求める人びとの声」

Swe Sett Aye(日本ミャンマーMIRAI創造会代表)、宗田 勝也(ラジオ番組「難民ナウ!」代表)

「外国人の使い捨ては許さない～人権なき移民国家にNO!」指宿 昭一(弁護士)

「オンラインフィールドワーク 長崎・原爆と部落とキリシタン」

阿南 重幸(長崎人権研究所副理事長／長崎大学非常勤講師)

「誰でも、どんなことも『学ぼう』～2畳大学の取り組み」

梅山 晃佑(2畳大学学長、A'ワーク創造館職業訓練事業部部長)

「『私の水平社宣言』を綴ろう」

森 実(世界人権宣言大阪連絡会議代表幹事)

リレートーク「私の水平社宣言」

内田 瞳(自立生活夢宙センタースタッフ)／加藤 拳人(部落解放同盟支部執行委員)／小阪 くみこ

(SAF・性的マイノリティと支援者アライをフラットにつなぐ会)／孫 弘樹(NPO法人トッカビ理事)／多原

良子((一社)メノコモシ代表)／林 力(ハンセン病家族訴訟原告団長)

島崎藤村の「破戒」が
60年ぶりに映画化

7月8日(金)より全国公開

<作品情報>

「破戒」(2022年)

原作：島崎藤村『破戒』

監督：前田和男

脚本：加藤正人/木田紀生

— 大阪府内の方へ —

「梅田ブルク7」「MOVIX堺」

「ユナイテッド・シネマ枚方」で公開

※映画「破戒」鑑賞推進大阪実行委員会では、鑑賞券を特別価格で提供しています。

購入者には、特典として、ポストカードを

もれなくプレゼント。

【お問い合わせ先】 Tel.06-6581-8880

映画「破戒」鑑賞推進大阪実行委員会



はじめての移動人権展2 <大阪府水平社創立100周年記念>

ともに考えよう！ 部落問題の歴史と今

期 間 2022年8月5日(金)～12日(金)
10時～17時(最終日のみ12時まで)

会 場 HRCビル5階ホール

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37

<アクセス>

JR大阪環状線「弁天町」駅北口より約600m(徒歩8分)

入場料 無 料

主 催 はじめての移動人権展実行委員会

問い合わせ 大阪人権博物館(TEL06-4301-7783)



《世界人権宣言大阪連絡会議よりお知らせ》

2021年度に実施した人権啓発動画コンテスト「みんなの人権・映像フェスティバル」を2022年度も実施します。詳細は(一社)部落解放・人権研究所のウェブサイトをご確認ください。



“知らないこと”を知る

未婚の母として、未婚の母とその子どもへの差別と真っ正面からたたかっていた頃、部落解放・人権研究所と繋がりを持った。恥を忍んで記すが、当時の私には“部落”という言葉が、耳から入ってくる“ブラク”という音にしか過ぎなかった。大学生時代、単位欲しさに“同和教育”の講義を履修していたが、よく覚えていない。そんな私は懇親の席で、あっけらかんと「(部落差別について)知らなかったらそれまでなんじゃないですか?」と言い放った。それに対して「違うよ!」と言葉が返ってきた。何年も前の出来事だが鮮明に覚えている。でも「違うよ!」の先にある答えが分からなくて「何がちゃんやろうか」と、手当たり次第に調べた。「知らないことはあかんことやねんな…」当時、自分が受けている差別とたたかっているにもかかわらず、そんな自分が誰かを傷つける発言をしてしまったことに酷くショックを受けた。“知らないこと”は差別に繋がる、ということの実体験をこのとき初めてしたように思う。

前置きが長くなったが、“知らないこと”は誰かを傷つける可能性がある。だとしたら、これを読んでいただいている方に“知らないこと”を届けたいと思った。パッと頭に浮かんだのは「産まれてすぐピエロと呼ばれた息子」の本と、CBCドキュメンタリーチャンネルで定期配信されている「

ピエロと呼ばれた息子」だ。生まれながらの難病、^{どうけいしやうぎりんせん}道化師様魚鱗癬という病気を患っている子と、そのご両親の動画を初めて見たのは1年ほど前。私は長年医療業界で働いてきたが、それでも初めて聴く病名だった、知らなかった。“部落”の時と同じように、手当たり次第に調べた。

その子のご両親は「少しでも多くの方にこの病気のことを知っていただきたい」「多くの人にこの病気を知ってもらえば、息子にとって必ず生きやすい世の中になるはず」といつも発言されている。“知らないこと”を“知って欲しい”と訴え続けている。だが残念なことに、そんな親子に対しSNSでの誹謗中傷を繰り返す人もいる。

考えさせられる、本当の意味で“知る”とは何か。

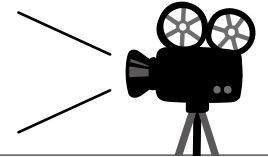
私自身が本を読んで何を知ったか、動画を見てどう感じたか、はあえて記すのはやめようと思う。是非とも自発的に“知らないこと”に出会いにあって欲しい、その思いに直接触れて欲しい。“知らないことを知ろうとする”思いがないと、どんなに本を読んでも、動画を見ても、そこには何も生まれないと思う。かつての、大学生時代の私のように。そして私自身も“知らないことを知ろうとすること”を続ける日々をこれからも送りたいと思う。

参加者募集!! 2022.7~10 研究所カレンダー

- 7/1 第118期部落解放・人権大学講座 開講式(～2023/1/25) @HRCビル
第35回人権啓発東京講座 開講式(～10/17) @松本治一郎記念会館
- 7/16 第1研究部門 第37回公開講座
「植村省馬と高知県自治団」 @HRCビル
吉田 文茂さん(高知近代史研究会副会長)
- 8/22～23 第53回部落解放・人権夏期講座 @和歌山県高野町
- 8/29～9/29 第53回部落解放・人権夏期講座 @録画視聴
- 9/30～10/31 第43回人権・同和問題企業啓発講座 第1部 @録画視聴



一般社団法人
部落解放・人権研究所



『会員ページ』のご案内

(一社) 部落解放・人権研究所『会員ページ』では、過去の講座の映像や研究会の配付資料の提供など様々なコンテンツを随時追加しています。ぜひチェックしてください。

視聴可能なコンテンツ (2022年6月時点)

- ・講演動画(過去の講座、学習会、研究会) 25本
- ・講演資料など 23点



詳細は、部落解放・人権研究所ウェブサイトの「会員ページ」よりご確認ください。

会員ページ



沖縄の地元紙「琉球新報」の、2022年5月15日付・朝刊1面の見出しは「変わらぬ基地 続く苦悩」でした。これは、沖縄が「本土復帰」となった、1972年5月15日付の紙面とまったく同じ見出しです。当時、解決すべき課題として残った基地問題が、50年経っても相変わらず存在し続ける現実。もうひとつの見出しは、「いま祖国に帰る」から「いま 日本に問う」へ。「私」は、その問いに応えることができるでしょうか?

(TY)

部落解放・人権研究所とは・・・

「一般社団法人 部落解放・人権研究所」は、部落差別をはじめ一切の差別撤廃をめざした部落解放運動の中で生まれた政策研究機関です。国内外の差別や人権問題の解決に役立つ調査研究事業、人権人材育成事業、人権教育啓発事業、情報発信事業等に取り組んでいます。

入会案内

部落解放・人権研究所は、研究活動に賛同し、参加してくださる会員（個人会員）を募集しています。会員（個人会員）には「A会員」、「B会員」、「学生会員」があります。

「A 会員」 年会費 10,000 円

特 典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊
『研究所通信』4回、「会員ページ」の閲覧

「B 会員」 年会費 7,000 円

特 典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊
『研究所通信』4回、「会員ページ」の閲覧

「学生会員」 年会費 3,500 円

特 典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊
『研究所通信』4回、「会員ページ」の閲覧

また、研究活動を支えてくださる賛助会員も募集しています。

「賛助会員」 年会費 50,000 円

特 典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊
『研究所通信』、『全国のあいづく差別事件』、「会員ページ」
の閲覧他



研究所通信 428号 2022年7月1日（奇数月1日発行）

発行所 （一社）部落解放・人権研究所

編集発行人 谷川 雅彦

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階

TEL（総 務 部）06-6581-8530

（調査・研究部）06-6581-8572

（啓発企画部）06-6581-8576

FAX 06-6581-8540

URL <https://blhrri.org>

定価 100円（税・送料込：会員は会費に含む）